

日立

MA

YUMI

外菜栽培圃
←直道



J u n e
2 0 2 6

PUBLIC INFORMATION PAPER OF UMEGAOKA

No, 99

医療法人主愛会 日立梅ヶ丘病院

令和 8 年度 永年勤続表彰

10 年を駆け抜けて

支援事業部 字原 正幸

私は障がい者支援の知識が全く無いなかでまゆみの里へ入職しました。居酒屋での職務経験から、会話や対応にはある程度自信はあったのですが、まゆみの里の利用者さんの対応には今でも迷うことがあります。

この 10 年間で、コロナ禍やまゆみの里の窓に目の前で鳥が激突し落鳥(2 回)、グループホームではマラソン大会当日に急遽代打で出場したり、レクリエーションでは妖精さんに変身したり、帰宅時に 3 頭の猪に囲まれたりなど様々なことがありました。

それでも、今日まで勤めあげられたのは皆様の温かいご支援によるものと感じています。今後ともご迷惑をおかけするかと思いますが、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

日立梅ヶ丘病院での 10 年間

看護部 平松 麻紀

約 10 年前に梅ヶ丘病院へ入職しました。これまでに 2 回の病棟異動を経験し、現在の C 棟の他に A 棟と B 棟で勤務してきました。共通して感じている事は、スタッフ間の風通しのよさとチーム力です。患者さんの対応において自身の感情の揺れに悩むこともありますが、相談できる仲間に恵まれ、問題や課題に向き合いながら取り組む事ができており、心強く感じています。日々の業務に追われることもありますが、相談できる上司や同僚がいる今の環境だからこそ、11 年目を迎える事が出来たと感じています。

現在は、退院支援や地域包括ケアに強い関心を持っています。患者さんが少しでも自分らしい生活を取り戻せるよう、今後も仲間と共に患者さんやその家族に対する支援に取り組んでいきたいと考えています。

令和 8 年度 永年勤続表彰者

10 年 B 棟	山田 涼子
10 年 C 棟	平松 麻紀
10 年 D 棟	鈴木 文香
10 年 作業療法室	鈴木 才子
10 年 まゆみの里	字原 正幸



私の看護観

新人看護職員継続教育：レベルⅡ

私は患者さんの心のケアに着目して看護を提供していきたいです。患者さんは治療のために様々なことを制限しなければならない環境の中、自身の精神症状と向き合い続けます。その中で、少しでも安心して入院生活を送ることができるよう支援していくことが看護師の役割であると考えます。

入院・転入後の患者さんは、慣れない環境の中で孤独感や心細さ、自身の症状や今後についての不安など様々な悩みを抱えることがあります。また、その悩みを抱え込んでしまうことが多く、時に話をしても状況は変わらないと思い、閉口してしまうことも多く見られます。そのような患者さんに対して看護師ができることは、日々のコミュニケーションの中で気にかけていると伝え続け、患者さんのニーズに合わせた看護・情報を提供し、より良い状況になるよう看護師も共に向き合っていると知っていただくことだと思います。看護教育から患者さんと信頼関係を構築し、看護師は良い支援者であると理解されることが、安心できる環境づくりに繋がると学びました。

また、日々の関わりや作業療法・レクリエーション活動によって、患者さんが悩みから離れる機会をつくることも大切です。活動による気分転換を促すことで、患者さんが抱えている様々なストレスを解消できるよう促していくことも心のケアに繋がります。しかし実際に患者さんと関わる際に、求めている情報を十分に提供することができず、うまく説明ができないことで信頼関係が崩れてしまう場面もあります。そうしたことができるだけ少なくなるよう知識や技術を身に付け、患者さんと積極的にコミュニケーションを図り、どのような関わりをすれば安心できるかを考え、質の高い看護サービスを提供できるように日々努力したいと思います。



部署紹介シリーズ A 病棟

A 棟 孤爪 靖子

A 棟は、精神基本入院料を算定している病棟として、精神疾患を中心に、身体面のケアも含めた支援を行っています。患者さんの状態はさまざまで、精神面への関わりを軸にしながら、その方に必要なケアを柔軟に組み合わせているのが特徴です。身体治療を必要とする患者さんも多く、医療的処置が比較的多い病棟でもあります。

当病棟では業務の効率化と時間の有効活用を目的として、従来の「申し送り」を廃止しました。現在は各自が診療録や看護記録から情報収集を行い、疑問点をその都度確認するスタイルを取っています。最初は「全部自分で見るの?」という声もありましたが、この取り組みにより記録の充実が図れ、情報の質や共有の精度が高まってきました。さらに自分のケアや看護に責任を持つという意識も、こうした日々の積み重ねの中で培われてきたものであり、現在では必要な情報を自ら取りに行くことが習慣化し、患者さんへの理解の深まりにも繋がっています。



看護体制は「部屋持ち担当制」を採用しており、担当看護師同士がチームとして連携しています。朝は自然と「今日はどう回りますか?」と打ち合わせが始まり、タイムスケジュールやタスクをすり合わせながら一日を組み立てていきます。とはいえ予定通りに進まないことも多く、「一度立てた計画を柔軟に組み直す力」も日々鍛えられているように感じます。

スタッフ構成は活気のある雰囲気の中で日々のケアが行われており、フレッシュな発想とこれまで培われてきた経験が自然に交わりながら、チームとしての力を高めています。それぞれの強みを活かしながら支え合うことが当病棟の大きな特徴の一つです。



一方で、効率化を図ってはいるものの、業務に追われてしまう現実もあります。「患者さんともう少しゆっくり関わりたいかった」と振り返ることもあり、コミュニケーションなどのケアを十分に行っていきたいという思いです。

そのような中で大切にしているのがカンファレンスです。現在は主に病棟スタッフで実施していますが、多職種での意見交換や情報共有が重要であると考えています。カンファレンスでは治療方針の共有やケア方法の統一に加え、それぞれの価値観から生まれる意見を持ち寄ることで、多くの視点が看護ケアの向上につながっています。また「本当にこれで良いのか」「あの対応で良かったのだろうか」といった日々のジレンマを共有することで、迷いの整理や新たな気づきにも繋がっています。今後はより効果的な情報共有のあり方を工夫し、患者さんにとってより良いケアへとつなげていきたいと考えています。

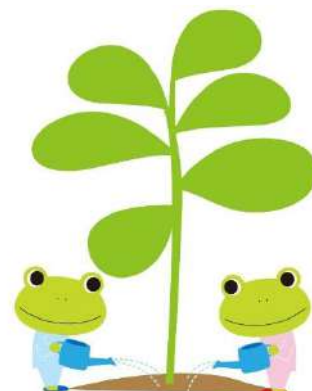


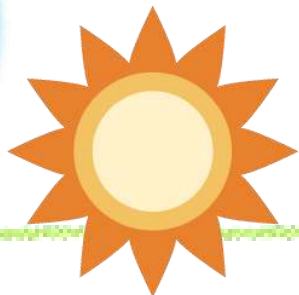
また、看護師だけでなく看護補助者も同じチームメンバーとして、それぞれの役割に責任を持って業務に取り組んでいます。日頃から職種に関わらず声を掛け合い、自然と助け合える関係性が築かれているのも当病棟の良さの一つです。忙しい中でも、ふとした会話ややり取りに支えられている場面は少なくありません。一方、課題としてはご家族への対応についてより丁寧でわかりやすい関わりができるよう検討を重ねているところです。



「効率」と「丁寧さ」のバランスに悩みながらも、スタッフ一人ひとりが患者さんに真摯に向き合っていることを、日々頼もしく感じています。課題もありますが、その分皆で支え合いながら前に進んでいる実感があります。

これからもスタッフとともに、患者さんにとって安心できる場であり続けられるよう、一つひとつの関わりを大切に積み重ねてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





園芸の畑に看板を設置しました！



作業療法室 亀岡 ほのか

まゆみの里の裏側にある園芸の畑に、「OT の畑」という看板を設置しました！

ここで作業療法活動のひとつである園芸について紹介したいと思います。現在は毎週火曜日の OT 活動時間内に、E 棟の患者さんの希望者 4～5 人で季節の野菜、(今の季節はカブやキャベツ、ジャガイモ、ブロッコリーなど)を育てています。プログラムには水やりや追肥、畝づくり、除草作業などの作業に加え、土壌の pH 管理や虫除け対策用のトンネル作りやマルチ敷きなど様々な作業が含まれます。



参加者に過去の園芸経験について聞いてみると参加者の約 9 割の方は園芸初心者であるという事が分かりました。しかし皆さん初心者ながらも野菜の変化に応じて「ここ枯れそうだから肥料や水あげた方がいいんじゃない?」「これじゃ栄養が行き渡らないから間引きしますか?」「雨が降ったので水は要らないですね」など臨機応変に対応しています。参加者が積極的に活動に取り組む様子や、経験した方から情報を集めて活動時に共有するなどの場面も多く見られます。



また、普段の室内活動で他の患者さんやスタッフとの交流が少ない方、自ら関わる事が難しい方も、園芸活動になると他の参加者とのコミュニケーションを図る様子や、作業を協力して行う姿、スタッフへの質問など積極的に交流する様子が多く見受けられます。



今後の園芸活動でも季節の野菜を育てながら、自然の温もりを感じられる時間や、土に触れ野菜の成長を楽しむ中で、自然と心がほぐれ笑顔が生まれるような時間を提供していきたいと考えています。各々のペースを大切にしながら、安心して楽しめる環境づくりを念頭に、患者さん一人ひとりに寄り添いながら活動していきたいと思っています。

ブロッコリー
収穫できました！



元気に育ってね！



わたしのイチ推し

～レジリエンスの源～



孔太



10 歳 オス ラブラドル
好きなこと：散歩・いたずら・食
べること！

看護部：長谷川 美穂
内藤 由美

梅子



推定 45 歳(約 15 年)
好きなこと：室内ウォーキン
グ・日光浴
好きな食べ物：乾燥エビ
ことぶき



まなと



1 歳 メス
好きなこと：ヘアゴムで遊ぶ
好きな食べ物：あんまんの皮
看護部：小林 礼奈

メダカ



2～4 歳位
好きな食べ物：いつものエサ
がお気に入り
たまにぼーっと眺めて癒され
ています！

診療部：鈴木 啓之

このコーナーでは、職員のみなさんの癒し・推し
活・没頭できる趣味などを、ジャンルを問わずご紹介
していきたいと思います。みなさんの「レジリエンス
の源」をぜひ教えてください！



作業療法を通じた「できる」の体験

作業療法室 木村 早希

私は作業療法士として、患者さんの「できる」を生かす関わりを心掛けています。しかし実際には、「できない」と活動を拒否される場合も多くあります。

Aさんも「ビーズをやってみたい」と声を掛けてくれましたが、案内をすると「やっぱりいいです」とその場を離れてしまいました。理由を聞いてみると「できない」「わかんない」としか答えてくれませんでした。しかし「やりたい」気持ちを尊重し、再度相談してプレスレット作りの予約をすることにしました。

活動当初は慣れない作業に苦戦していましたが、1つひとつの工程をフィードバックしながら進めていくことで最終的には軽い声掛けのみでプレスレットが完成しました。完成後は「私にもできました、ありがとう」と笑顔が見られ、他の患者さんからも声を掛けられ新たな交流が生まれていました。また「次もやってみたい」と意欲を示され、「できる」体験が自信となり、次の作業に繋がることを実感しました。

私自身、作業療法士として患者さんの生活を豊かにするきっかけを作ることができたことにうれしさを覚えました。今後も作業療法を通して患者さんの「できる」を「やりたい」に繋がられるように努めていきたいと強く感じました。



「OTの畑」はまゆみの里の裏側にあります！



医療法人 圭愛会 日立梅ヶ丘病院

所在地：〒316-0012

茨城県日立市大久保町 2409-3

TEL：0294-34-2103

FAX：0294-33-1800

URL：https://umegaoka.or.jp

E-mail：info@umegaoka.or.jp



IT委員会

広報紙部会

鈴木啓之 長谷川美穂 高坂史織

岩間智也 小野目智広 岩間愛子

直井勇弥 高根澤和子 吉田彩

編・集・後・記と表・紙・解・説

「真弓」は、今号で99号となりました。あと1冊で100号です。これまでの歩みを築いてくださった皆さまに感謝しつつ、バトンを繋いでいけるよう、広報紙作りに取り組んで行きたいと思っています。どうぞ引き続き温かく見守っていただければ幸いです。

今号の表紙は作業療法のプログラムで使用している畑です。患者さん達が生き生きと取り組む姿が印象的でした。近くを通られた際はぜひ声をかけてみてください。

事務部 小野目 智広